

【巻頭語】

日野原重明記念滋賀の会 世話人代表 嘉田由紀子



「あなたはどんな最期をのぞみますか？」

いのちつぐ「みとりびと」という4巻セットの写真集があります。大津市在住の写真家國森康弘さんが、人生の最期をむかえた高齢者を自宅に訪問して在宅医療をささえる東近江市永源寺診療所の花戸貴司さんの日々の医療現場を活写した写真集です。ひ孫さんがひいおばあちゃんのなきがらに頬を寄せてお別れする・・・そんな感動的場面に満ちた写真ばかり。こんな風に旅立てたら幸せだろうな、と思わず共感させてもらいました。

私たちは「なぜ、滋賀が長寿日本一になったのか？」というシリーズ講演会を開催してきました。その4回目の講演会には是非とも國森さんと花戸さんをお迎えして、どんな最期をむかえるのが幸せか、ともに考える場をもてたらと企画しました。また東近江モデルとして、在宅看取りの仕組みを先導してきた角野文彦滋賀県理事に政策立案者としてのお話をうかがいます。10月の守山講演会に、皆さんどうぞふるってご参加ください。

【総会の報告と講演会のお知らせ】

令和3年(2021年)度 日野原重明記念新老人「滋賀の会」総会

2021年5月29日(土曜日)14:00~14:30 場所:モア・エンタープライズ 2F

挨拶:嘉田由紀子世話人代表 出席者数22名、委任状31名、会員数57名(2021年4月29日現在)

第1号議案:1)総会開催時期10月を今後は5月に開催する。

2)年会費:シニア・ジュニア会員・夫婦会員:5,000円は、承認された。サポート会員3,500円は現行の通り。

当規則の施行日は令和3年(2021年)5月29日とする。(総会資料別添え)

第2号議案、第3号議案、第4号議案、第5号議案、第6号議案 すべて承認。(資料同封)

1 活動と課題と沿革

1)琵琶湖を囲む周辺市町の特性を配慮した運営と活動を継続する。

2)「人生100年時代」「社会貢献活動に参加する大切さ」と「コロナと共に元気に生きる」学びを深めた。

3)「なぜ、滋賀が長寿日本一になったのか？」なお、日野原イズムの継承の実現に向け、

さらなる歩み、地域別個性を見据えながら、滋賀県全体として、民間レベルの検証を継続する。

4)今、「コロナ禍の中」これからも官民協力をしたの施策構築が必要。その基本的哲学として、

日野原イズムの重要性を学べる場として「滋賀の会」の活動を進めます。皆様の支援、ご協力をお願いします。

2. 主な活動

1) 世話人会の開催： 月1回 世話人 11名

2) ミニ会報の発行：

58号 2021年8月 59号 2021年12月 60号 2022年3月

3) 講演会 2021年10月31日(日)



講師：花戸貴司氏 国森康弘氏 角野文彦氏 (チラシ同封)

4) 「健康講話」 世話人会開催毎 奈倉道隆氏

5) 「観月会」 2021年10月20日(水) 16:00～ 問合せ先：090-7096-6368 小林英代

6) 懇親会： 日時：未定(準備中 年末または新春)

7) 会員の活動

・コーラスさざなみ 彦根東公民館 第1・第3木曜日 13:00～15:00 講師：寺村紀代子

問合せ先：090-8829-7997 堤 威智正

・健康でいきいき 介護を受けずに100歳をめざす！ 講師：松下唯夫 藤田マオ

「ポールウォーキングを楽しみましょう！」次回9月 問合せ先：090-7096-6368 小林英代

7月13日(火) 目的地：加茂神社、神社内に光のスポットあり、光の波動を浴び、感動とリフレッシュを体験しました。



・滋賀探訪 目的地：三上山山頂&花緑公園 6月25日

モットーその2 創めましょう モットーその3 耐えましょう・・・「オー！、三上山なめたらアカン！ 履き慣れた靴、下山で滑って怖い思いを・・・!!!

モットーその1 愛し愛されること すばらしい日野原イズム。おかげさまで 無事 花緑公園に到着。 感謝 感謝、お昼を、楽しみました。



今回の滋賀探訪では、電車の中からその美しい姿にあこがれていた近江富士こと三上山に登ることができました。優美な姿でありながら険しい岩場もありお互いに声をかけながらの山行でした。展望台では眼下に豊かな自然が広がり信仰の山であることも知りました。機会があればまた登ってみたいものです。昼食後は広大な花緑公園の中の植物園を散策し森林浴を楽しみました。滋賀にはすばらしい自然が沢山あると改めて感じました。楽しく充実した一日でした。 会員 南沢登代子

次回：2021年11月5日（金）10：00～ 目的地：渡岸寺観音堂&東アジア交流ハウス

集合場所：渡岸寺観音堂（向源寺）国宝十一面観音立像 交通機関：自家用車相乗りにて

渡岸寺観音像堂（10時）→ 東アジア交流ハウス 雨森芳洲庵 問い合わせ先：0749-85-3141 七里 藤吾

6) 今後の目標

3つのモットー ① 愛し愛されること ② 創めましょう ③ 耐えること

ひとつの使命 「子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること」 日野原重明

だれもが地域で自分らしく暮らし続け、老いを迎え、平穏に死を迎える社会を創るために、必要な解決策は「日野原イズム」の基本的哲学に支えられたボランティア「社会貢献」・その実践を継続すること。

かみかみ てくてく はらはら ときどき ペイフォワード（先送り…）しましょう。

以上

【会員だより】

（会員 栗東市）服部和子

○結婚と同時に京都から移り住んだ滋賀も住めば都で今はかけがいのない第二の故郷になりました。その滋賀のことをもっと知りたくて「ケイブン文化講座」を受けています。「文学を通してみる近江の風景」は神戸人でありながら「滋賀が大好き」という旅行作家、西本棚枝先生の講義で近江の美しい自然や歴史、また作品の中で描かれる武士、商人、農民、学者、僧侶などの近江人を詳しく解釈していただけますのでより一層私の興味や理解も深まっています。今月の講座は江戸時代の百姓一揆の内、唯一徳川幕府の政道に対して異を唱えた「甲賀一揆」を読みました。その後、舞台となった甲南町矢川神社を現地学習いたします。コロナ禍の中で得た沢山の時間を活かし青葉の美しい近江の山々を眺めながら歴史ある街道巡りをして楽しみたいと思っています。

○この3月に20年来のお友達を亡くし、すっかり気落ちし、事ある毎に彼女の笑顔が浮かんで来ますが、月日が経つにつれ、その思いも薄れてくる時とまた悲しみが湧いて来る時があります。このコロナ禍で外出もままならず、以前だとジムに通ったり、趣味で色々隙名事をしたり、またお友達等と食事、お茶など楽しんでいましたが、それも今では思う様にならず、唯一密を避けて、色々場所を変えウォーキングなどしております。

（会員 彦根市）北村てる子

○コロナの不安をのり越える「新老人」をめざして

日野原重明記念新老人「滋賀の会」令和3年総会スピーチ

★誰もが不安に思うコロナですが、幸い、ワクチン接種が始まり、爆発的な蔓延は避けられそうです。

でも、コロナの根絶はかなり先でしょう。不安は長引きそうですね。

★自粛が長いとフレイル（体と心の萎縮）を招き、これから先の長寿の人生を貧しくします。

そうならないよう親しい人と交流したり、森林浴に出かけたりしましょう。不安に向き合う勇気が湧いてきます。

★大切なことは、不安を抱え込まないで、何でも話せる人と話し合うことです。話せば不安は手放されます。

聞く人は、絶対に他人に漏らさないと確約します。安心して語れることが大切です。

★信頼関係が持てる人と親しくなるだけでも、高齢期の人生が潤います。

新老人の会には、そういう人が多く、会員にふさわしい人に出会ったら、私たちの仲間になってもらいましょう。

★真心を持って対話する時は、自分の意見を語る前に、相手の話を聴きます。自分が話すときにも「……と思いますが、あなたはどうですか」と相手の意見を聞く態度を示します。自分が納得できる意見には「そうですね」と答え、納得できないときは「あなたはそうお考えになるのですね」と答え、否定したりしないことです。こちらの意見を聞かれたら率直にお応えしましょう。

★相手が自分の意見を聴いてもらいたいときに「不安に思う必要はない」と語っても、「わかっています」などと答えつつ自分の思いにこだわる人もおられます。しかしその思いを真剣に聞くと、熱心に語りつつ思いが柔軟になっていかれる人もおられます。

★何でも聞いてもらえる人と出会い、自由に話しているうちに、自分を顧み、考えを広めていかれる方も多いように思います。

★他人の指図でなく、自分から気づいたことは、自分の思いを変える力を持ちます。

不安を持ちながらも、それにこだわらず、積極的に日々の生活が送れるように変わっていかれる方もあります。

★まずは誠実に「傾聴」に努めましょう。

奈倉道隆（顧問）

～会員みなさまの近況報告もしくは、ご自身で取り組まれている活動などの掲載記事を募集しています♡～

奮って、ご応募いただきますようお願い申し上げます。



2021年5月7日

令和3年春の叙勲において、酒井泰弘顧問様は、長年にわたる教育への優れたご功績と、経済のリスク研究の日本における第一人者であり、現在も意欲的に活動されています。これまでの顕著なご功績により、「瑞宝中綬章」を受章されましたので、お知らせいたします。

第3回 びわ湖音楽祭に参加して

「100万本のバラの花 あなたに…… あなたに…… あげる」昔のことを思い出し加藤登紀子コンサートに感動いたしました。楽しいひと時をありがとうございました。帰り道、2羽のコウノトリが やさしく 仲良く いたわりながら 夕焼けの西の空に向かって飛んでゆく姿…見たことのない 光景に出会い幸せ感に満たされ、家路に着きました。感謝、感謝、感謝。

(会員 近江八幡市) 小林英代

昔は、びわ湖の水はこんなものではなかった。もっと もっと!美しかった…との声を、折、折に、たくさん、たくさん、耳にします。オープニングは高島ウインドアンサンブル。三日月大造知事は「今朝一番に、竹生島に詣でてきました」と、霊験あらたかに、巖かに、ご挨拶。知事のご挨拶から、びわ湖への祈り、思い入れの片鱗を感じ、感銘的なオープニング。針畑源流太鼓はこどもたち3人、コロナ対応の会場に元気良く響き渡り会場は、ひとつに。長浜バイオ大学「悠久の街 市民コーラス」は、長浜バイオ大学校歌(加藤登紀子作詞作曲)を披露。第2部、加藤登紀子ライブ、白いドレスは、高月の見返り観音像の衣装をイメージ。フィナーレは「100万本のバラの花 あなたに……あなたに……あげ……」びわ湖の水が、もっともっと美しくなるように……と会場にこだまし、次の出港、長浜へ船出のエール。日野原重明先生「嘉田さんあなたはびわ湖を研究しましたね。びわ湖は命ですよ……」と長浜講演会の最期の言葉に重なり……感謝感激

(会員 守山市) 中井美幸



ササユリ



シチダンカ